

最近の特異火災から

スカイシティ—南砂マンション火災の概要

東京消防庁 予防部 予防課

都市の過密化と並行して、建築物の高層化多用途化等が進行するに伴い、今後、高層建築物での火災発生が予測されております。発生した災害事例は、十分に災害発生要因や危険要素を多角的見地から検討し、同種災害の発生を未然に防止して頂きたいところであります。

今般、本誌編集担当の方から執筆の機会を得ましたので、最近の災害事例の紹介として去る8月24日の午後4時頃、東京都江東区内で28階建てのマンションの24階から火災が発生し、一住戸と住戸前廊下等を焼損するいわゆる高層建築物の火災事例がありましたのでその概要を紹介いたします。

1. 火災概要

(1) 消防機関が火災を覚知した年月日

平成元年8月24日(木)16時02分に119番通報されたもので、鎮火は19時06分

(2) 出火場所 江東区南砂5丁目8番13号 スカイシティ南砂 24階

(3) 気象状況 天気 晴れ、湿度55% 風位風速2.4m/s、気温31.5℃

(4) 焼損程度 24階159㎡部分焼 (2403号室 108㎡、廊下51㎡) バルコニー屋根25㎡ 25階 布団1、物干し竿2、網戸1

(5) 死傷者の状況

死者 なし 傷者 6名

表1 死傷者の状況

氏名(年齢)	程度	内容	居住部屋
男 (42)	中等傷	顔面2度熱傷	/
女 (29)	中等傷	CO中毒	
女 (2)	中等傷	CO中毒	2804号
男 (9)	中等傷	CO中毒	2704号
女 (3)	中等傷	CO中毒	2509号
女 (27)	軽傷	右足間接挫傷	2505号

(6) 救助・避難誘導状況

救助者は4名であり、避難誘導については、女2名が、2804号室から避難しているところを消防隊が誘導した。

2. 出火原因

24階・2403号室(4LDK)一世帯3名が居住する室内のリビングルーム南側にあるオーディオセット付近から出火したもので、出火原因については調査中

3. 発見、通報、初期消火及び避難状況

(1) 発見状況

責任者の義母・A(65)が、買物から帰宅し、玄関の扉を開けると中から黒煙が吹き出してきたため「火事だ」と思い、部屋に残した二女B(34)をすぐに出そうとして居間に

いくと、オーディオセット付近から煙と炎がでているのを発見した。

すぐに、Bを引きずり、廊下に出て、隣人主婦C（2402号室）に通報を依頼した。

(2) 通報状況

2階防災センターにいた防火管理者の妻D（48）が、自動火災報知設備のベルが鳴動したので受信盤を見ると24階を表示していた。

その直後、2402号室のCから2403号室が燃えていると知らされ、エレベーター（2号）で25階へ行き、扉が開くと、エレベーター内に濃煙が入って来たため、すぐに扉を閉めて2階の防災センターへ戻り、119番通報した。

なお、初期消火はなされていない。

(4) 避難状況

出火室にいた二女・Bは、火災に驚いて通報しようとして、そばの電話を取る際に椅子から転げ落ち、上向きで倒れていた。

外出から帰った母親Aが部屋の中に入り、二女・Bを引きずって廊下に出し、階段踊り場まで行ったが降りられないため、北側バルコニーに連れていった。

この時、21階で火災に気付いて上ってきた当該建物のハウスキーパーのE（45）が中央

階段を利用してバルコニーに上がって来たため母親Aが救出を依頼し、EがBをおぶって西側階段を降りて2階の管理人室までつれて行った。

(5) 延焼状況

ア. 出火室の延焼状況

オーディオラック付近から出火した火炎は、オーディオラックの木枠、及びテレビのキャビネットなどを燃焼して拡大し、開放されていたアルミサッシ戸及びガラス戸の破損により流入した空気ですぐに拡大して天井に達し、当該住戸内の他室へと延焼拡大したものと推定される。

イ. 出火室から廊下への延焼状況

出火室から拡大した火炎は開放された玄関ドアから廊下へと延焼拡大した。

なお、消防隊到着時には、特別避難階段の附室に濃煙熱気が充満し、進入できない状況であった。

4. 消防用設備等の作動、活用状況

(1) 自動火災報知設備：作動していた。

2403号室のAが、二女・Bを救出する際に、自動火災報知設備のベル鳴動を聞いている。

(2) 放送設備：消防隊到着時に、防火管理者の妻・Dが119番通報後、業務用の設備で操作したが、館内放送されなかった。

その後、消防隊が非常放送設備を使用して放送を行っている。

(3) 連結送水管：22階及び24階中央コア附室並びに23階西側廊下に設置された連結送水管を消防隊が活用した。

(4) 非常コンセント（100V）：残火処理時の照明作業に用いている。

(5) 消火設備：消火器、屋内消火栓設備はい

表2 救助状況

女（3）	2509号室居間のソファにいたところを城東CPが救出し、大平Aへ。
男（9）	2704号室のバルコニーにいたところを上野Rが空気呼吸器のマスクをつけて救出し、大平Aへ。
女（28）	2308号室西側バルコニー（24階部分）、にうずくまっていたところを本田Rが救出し地上へ。
女（54）	2802号室前にいたところを城東Lが救出し、地上へ。

CP：化学車、A：救急隊、R：特別救助隊、L：梯子車

ずれも出火当時使用されていない。

(6) 消防用水：消火活動のために、2基(100t、60t)とも使用されている。

(7) 排煙設備：出火階中央廊下部の排煙設備は使用されていない。

特別避難階段附室の排煙設備は、火点階及びその上階は消防隊到着後になって起動されている。

(8) 防火区画の状況

ア. 住戸内

2403号室の面積は、100㎡を超えているため、住戸内に防火区画を設けており、住戸内の1区画は100㎡以内としている。

イ. 住戸と他室及び共用部

隣戸との間仕切り壁は2時間耐火である。

住戸と廊下間は、出火した住戸の出入口扉に常時閉鎖式防火戸が設置されていた。

ウ. 特別避難階段附室の防火戸

特別避難階段附室（非常用エレベーター附室と兼用）については、廊下から附室への防火戸は、廊下の煙感知器で作動し閉鎖している。

5. 建物概要

(1) 概要

ア. 耐火28階 地下1階（軒高81m）

イ. 建築面積 4,902㎡
（住棟部分2,067㎡ 駐車場部分2,835㎡）

ウ. 延べ面積 36,044㎡
（住棟部分33,209㎡、駐車場部分2,835㎡）

使用検査年月日 昭和63年2月16日

エ. 階別用途等（表3参照）

(2) 消防用設備等の設置状況

消火器、屋内消火栓設備、自動火災報知設

表3 階別用途等

階	用途
B1	機械室・電気室・貸倉庫
1	自転車置場・倉庫
2	共同住宅、ゲストルーム、集会場、防災センター
3～28	共同住宅、世帯数・242世帯、居住者・663名
PH	ファンルーム等

備、非常放送設備、誘導灯、連結送水管、非常コンセント設備、ハロゲン化物消火設備、粉末消火設備

6. 消防活動概要

(1) 出場車両

ア. 消防隊 ポンプ車14、はしご車1 等
合計 42隊（消防職員185名）

イ. 消防団 可搬ポンプ1（消防団員39名）

(2) 消防活動状況

ア. 現場到着時、防災センターで自動火災報知設備の受信盤により火点階を確認するとともに管理人の妻・Dから24階の、2403号室が延焼中で、部屋には逃げ遅れ2名があるとの情報を得たことから、2403号室の燃焼実態の確認と検索救助優先を初期の活動方針とした。

イ. 消防活動は、23階を活動拠点とし、消防資器材を非常用エレベーターで搬送し、23階の連結送水管を活用して屋内階段から火点階に進入した。

ウ. 防災センター内に指揮本部を設置した後①逃げ遅れた者の検索救助、②上階への延焼阻止を活動方針とした。

7. 防火管理等の状況

消防用設備等点検等については適正に行われ

防火管理者選任日届出, 消防計画作成及び,

ていた。

(文責 計画係 河崎)

図1 24階平面図

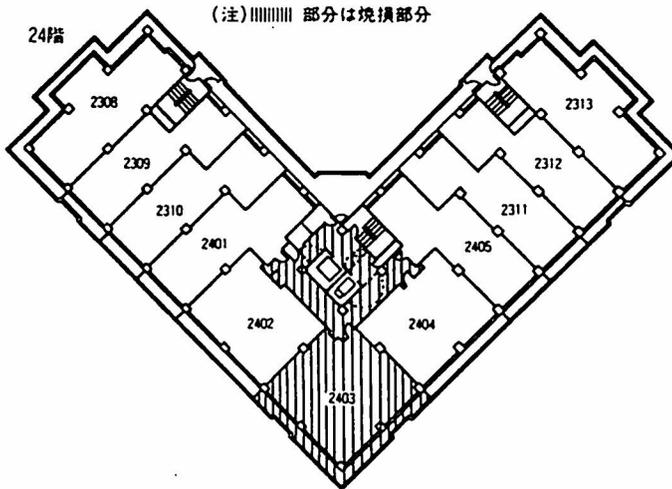


図2 出火室付近の平面図

